

牛久：学校周辺に見る自然

第42号 牛久二小，中根小，牛久自然観察の森，稲敷市民農園

2010年10月30日発行

<秋の味覚>

秋の味覚も、梨・ブドウからカキ・クリへと移ってきました。学校にも最近はいろいろな果物のなる木が植えられています。



まずはカキ。左は 10/1 に牛久二小で撮ったものですが、現在は成熟がすすみ葉も紅葉し始めています。右は 2007/12/21 に牛久自然観察の森で撮影したのですが、鳥もカキは大好きなようで、大きな鳥は種子ごと飲みこんで他の場所に糞を落とし、仲間を増やすのに役立っているようです。メジロのような小さな鳥には種子を飲み込むことはできないでしょうが、つつかれながら下に落ちた実や種子をネズミなど他の動物が運んでいくといわれます。



次にクリ。上左は 10/1 に稲敷市民農園で撮ったもので、いがが4つに裂けて中に3つの果実がのぞいていました。これが普通のクリの実なのですが、よく観察していると時々、上右の写真（2008/9/27 撮影）のように4つ以上の果実が入っているものに出くわすことがあります（写真のは大きくなれなかったものも含めて7つ入っていました）。よく探すと、スタジイやシラカシなど他の”どんぐり”のなる木でも、複数の果実の入ったものが見られるそうですよ（ふつうは1つのおわんに1つのどんぐりですね）。そんなのが見つかったら、教えて下さいね。そしてもう一つ、最近クリやスタジイで、秋なのに新しい枝を伸ばし花まで付けているのを見かけました。左は 10/26 に中根小下の駐車場で撮ったものですが、雄花の穂を伸ばしアリや甲虫などが蜜を吸いに来ていました。不思議ですね。こうした情報も待っています。【理科支援員・宮内】